

平成23年度事業報告書

特定非営利活動法人 藤沢ラグビー蹴球倶楽部

1. 事業の成果 総括

当倶楽部の活動は特定非営利活動に係る事業に限定され、営利活動は行っていない。報酬を受ける役員、給与を支払っているスタッフ共にいない、純粋な特定非営利活動団体である。特定非営利活動に係る当倶楽部の平成22年度事業活動について、以下の通り報告する。

当倶楽部の事業内容は、定款第5条に規定されているように、1) ラグビースクールの運営に係わる事業、2) ラグビーフットボールの振興・普及に係る事業、3) ラグビークラブチームの育成・指導に係わる事業、4) 他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係わる事業、5) その他倶楽部目的を達成するために必要な事業 となっている。これらの事業全般につき、平成23年度は会員や関係者の献身的な活動により、計画通りの進展と所期の成果をあげることができた。

ラグビースクール事業は、生徒数204名、登録指導員数76名にて運営し、神奈川県下で3番目の生徒数を抱えるラグビースクールである。秋の県大会では、小6の1チームと小5の1チームが優勝を果たし、かつ小6の1チームと小4、小3の各2チームが準優勝という成果をあげた。また、昨年度より開催されている小6を対象としたファイナルカップでは3位という成績であった。

神奈川県クラブラグビーリーグに所属するトップチーム(湘南プレイボーイズ)は、昨年に引き続き1部リーグにて春季、秋季のリーグ戦に参加し、秋季リーグでは全勝優勝を果たした。東日本都道府県大会では、当チームから10名を選抜選考された神奈川県代表が、ブロック優勝し南関東ブロック代表となったが、東日本大震災の影響もあり、本大会へ出場は神奈川県協会の都合で辞退となった。また、昨年度に引き続き、当チームの主体で国体には神奈川県代表として参加することが出来た。残念ながら関東ブロックで勝ち上がることが出来なかったが、社会人チーム(関東社会人1部クラス)と互角に渡り合える実力がついてきたと思料する。

タッチラグビーチーム(湘南グラスボーイズ)は昨年に引き続いて県内外の各大会で好成績を残した。スーパーリーグには前期・後期に出場し、後期大会では準優勝を果たした。また、6月にスコットランドで行われたタッチワールドカップ日本代表として3名が選出され、6位という成果をあげた。更に湘南グラスボーイズ主催の大会も継続実施し、日本のタッチ界を牽引する存在となりつつある。

シニアチームは春秋の藤沢大会(藤沢マスターズ)の常連として欠かさず参加し、海老名マスターズや藤沢市民大会へも単独チームを編成して継続参加している。

女子ラグビー(湘南スプリングス)部門は本年度登録者0という状況となったが、スクールの小中学在籍の女子が女子連盟主催のガールズフェスティバル等に積極的に参加し、将来の女子チーム復活の礎となりつつある。

1) ラグビースクールの運営に係わる事業

平成23年度については、秋の県大会で全学年優勝こそならなかったものの、小6の1チームと小5の1チームが優勝を果たし、かつ小6の1チームと小4、小3の各2チームが準優勝という成果をあげるなど、全体として着実にチームの強化が進んでいる。

また、指導体制については、引き続き3年間継続・固定し、指導実施項目として昨年に引き続き、①共通目標の理解・一元化 ②年間練習計画の立案 ③月次・日々の練習計画のコーチ間における認識の一元化 ④練習成果の把握・レビューの実施 ⑤ミルキー～ミニ～ジュニアのパスウェイの見直し再確認という基本方針を通じて、チームを勝たせる指導を引き続き推進した。そして「シンプル、反復、強弱、理解」

をスローガンに掲げ指導に臨んだ。

指導体制は昨年に引き続き、スクール校長の下に全体を統括する総監督をおき、ジュニアクラス（中1、中2～3）、ミニクラス（小3～4、小5～6）、ミルキークラス（幼～小2）の5ユニットを基本に、各クラス統括ヘッドを置くとともに、各学年にヘッドと指導員とを配置し、ユニット内での指導交流や合同練習をできる体制とした。

4月2、3日に指導員研修会を開催して指導方針を徹底し、4月10日に入校式を行った。以降毎日曜日の午前中をラグビーの指導・練習日とし、小学5年生以上は土曜日にも練習日とした。

5月3日～4日にかけて中学生と小6は春合宿を行った。5月22日にはラグビーフェスティバルを開催し、多くのラグビー未経験の子供たちも集まり、生徒勧誘に有効な行事として定着している。

7月22日～24日には例年通り中学生が菅平ジャンボリーに参加して各県チームと試合を行い、8月12日～15日には恒例の夏合宿を、山梨県富士緑の休暇村で実施した。夏合宿には小学3年生以上の生徒が128名と、指導員42名、OB20名の他に、約70名にのぼる父母が参加し、厳しい練習と、隣り合う学年同士の試合、及び中学AチームとOBを中心としたチームとの試合等を通じて、ラグーマンとしての大きな成長を遂げるとともに、各学年を超えた班編成による共同生活を体験することにより、上級生は指導力を、下級生は協調性を身につける大きな機会となった。

9月から小学校3年生以上は秋の県大会に臨み、小学生は過去最多の11チーム、中学生はAチームと中1チームとで参加した。小学生のうち、小6の1チームと小5の1チームが優勝を果たし、かつ小6の1チームと小4、小3の各2チームが準優勝という成果を残した。中学生は、Aチーム（中3～2）は決勝リーグで7位という結果となった。

小3以上の県大会とは別に、幼児～小2までのミルキークラスでも県下各ラグビースクールが集まっていたミルキー交流大会が開催され、当スクールミルキー各学年も積極的に参加した。

県大会終了後、2月19日と25日に、昨年に引き続き神奈川県協会主催の第2回ミニラグビーファイナルカップが開催された。これはミニラグビーの集大成である小学校6年生チームを対象に、県下16のラグビースクールの最強チームを決定するトーナメント大会で、当スクール小6チームは3位という成績であった。

3月18日にはラグビースクール卒業式を行い、14名の中学3年生が巣立っていった。ラグビースクールは1月15日より、新学年指導体制への切り替えを実施した。

2) ラグビーフットボールの振興・普及に係わる事業

本年度も藤沢市ラグビーフットボール協会、神奈川県ラグビーフットボール協会、関東ラグビーフットボール協会の主催するラグビーの振興と普及を図る活動に、積極的に参加、協力を行った。

藤沢市協会の主催する第30回藤沢市ラグビーフェスティバルは7月17日に秋葉台グラウンドで行われ、当倶楽部からはラグビースクールの小・中学各学年が参加した。また9月11日には第31回藤沢市ラグビー大会が秋葉台グラウンドで開催され、ラグビースクール各学年と湘南プレイボーイズが参加し、大会の主役を果たした。

神奈川県協会主催のラグビースクール秋の県大会は、小学3年が4チーム、小学4年が3チーム、小学5年が2チーム、小学6年が2チーム、中学生はAチーム（中3、中2）とCチーム（中1）の2チームが参加し、戦績は前記のとおりであった。

トップチーム（湘南プレイボーイズ）は、日大藤沢高校及び法政第二高校など高校へ出向き、練習相手や技術指導を行った。オフシーズンである1月から3月においては、積極的に県外のチームと練習試合を行うなど、交流・振興を図った。また、東日本地区を対象とした都道府県大会に10名の選手が神奈川選抜として戦い、南関東ブロックで優勝し、ブロック代表となったが、東日本大震災の影響もあり、本戦出場は辞退となった。

神奈川代表のほとんどを当チームで構成され、臨んだ国体は、惜しくも山梨県に敗れたが、神奈川代表の一員として、振興の一翼を担った。

タッチラグビーチーム（湘南グラスボーイズ）は毎週土曜日に定期練習を行うとともに、各地のタッチ大会に積極的に参加し、本年度も優秀な成績を収めた。前後期のスーパーリーグに継続参加し、前期

第6位、後期第2位の結果を残すとともに、千葉・東京の各大会にも積極参加した。9月のジャパンカップ関東では、2勝2敗の成績で本年度の日本選手権出場はならなかったが、東日本の強豪チームに育ちつつある。

他方で湘南グラスボーイズが主催する大会も増えており、5月には交流戦を、7月には第10回湘南大会を、11月には第5回神奈川大会を、また3月には恒例となった第3回小中学生大会をそれぞれ実質的に主催した。

シニアチームは隔週日曜日に練習を行うとともに、春秋の藤沢マスターズや藤沢市民大会、更に海老名他のマスターズ大会に積極的に参加した。40才以上の指導員とタッチメンバーで構成されているが、近時若手の指導員も参加してメンバーが増加しつつある。

女子チーム（湘南スプリングーズ）の本年度登録選手は0となり、残念ながらチーム編成は出来なかったが、女子連盟行事に積極的に参加した。11月には女子連盟主催のガールズフェスティバル（熊谷ラグビー場、女子小学生も参加）等に参加することにより、各地の女子選手との交流を深めた。

3) ラグビークラブチームの指導育成に係わる事業

トップチームはラグビースクールOBを中心としたチームであるが、全国クラブラグビー大会へ出場し、クラブ選手権を制覇することを究極の目標としており、仕事や子育てに追われる一方で週末に練習を重ねている。従来はラグビースクールOBが主体だったが、近時OB以外のラグビー経験者が入ったことにより選手層に厚みが増し、かつチームプレーの徹底とコンビネーションのための意識統一や個々の技術スキルの向上を図ってきた結果、神奈川県クラブリーグの1部リーグに定着している。本年度は国体神奈川代表となり、関東社会人1部リーグのチームと互角に戦う実力をつけつつある。

また、様々なカテゴリのチームが参加する神奈川セブンスや藤沢セブンスに積極的に参加し、15人制と異なるランニングスキルの向上を図った。

タッチチームは神奈川県でのタッチラグビー普及の基礎作りを推進しており、7年前には当タッチチームが主体となって神奈川県タッチ協会を結成した。近時はメンバーが日本タッチ協会の勉強会やレフェリー講習会に参加する等、活動が神奈川から日本レベルを視野に置きつつある。更に本年はスコットランドでタッチワールドカップが開催されるが、MEN30及びMEN35クラスの全日本代表に、当倶楽部より3名が選出され、活躍した。

女子チームは育成途上にある。本年度は登録メンバーが0と、単独チーム編成は困難な状況にあるが、通常はラグビースクールの中で練習を行い、女子連盟行事へも参加している。小学生の各学年に2~3名の女子が在籍しており、中学生以降もラグビーを続けるよう動機付けが必要と考える。

コーチ養成については、県協会主催のスタートコーチ研修会やレフェリー講習会に積極的に参加し、各々資格取得にチャレンジしている。スタートコーチ資格は既に昨年度にほぼ全指導員が取得しており、本年度はC級レフェリー資格を2名が取得した。また、3月11日には藤沢市協会主催の指導者講習会にも多数の指導員が参加した。

4) 県内外団体とのラグビー交流を通じた振興普及活動

昨年度に倶楽部40周年記念事業の一環として、各事業主体毎に県外遠征を行ったため、本年度は県外遠征は行わなかったが、中学生が毎年参加する第13回東日本ジュニアラグビー菅平ジャンボリーに参加し、全国の中学生ラグーマンとの交流を図った。また、第9回東日本U15ラグビーフットボール選抜大会に神奈川スクール選抜チームのメンバーとして数名が参加し、交流を通じた普及活動を行った。

5) その他スポーツを通じた地域活動

毎年恒例のラグビーフェスティバルを5月に開催した。本フェスティバルは、地域住民との交流やラグビーフットボールへの理解を深めることに効果があり、地域住民の参加者も多く、参加者の中から、ラグビースクールへの入校者も出て、ラグビーフットボールの振興普及に対して有効であるため、今後も継続

して実施して行く。

10月の藤沢市スポーツ少年団の交歓会には、小5、小6年生が参加した。また12月には、地域交流の一環として辻堂砂山市民の家祭に参加し、スクール生徒による幼児への工作指導や焼きそば屋出展等の活動を行い、辻堂地区住民との交流を深めた。12月には横浜スタジアムにて、県下全ラグビースクール参加のもと、冬季交流運動会が開催された。

2月19日に辻堂海浜公園で行われた第6回子供駅伝大会には、小学生4チームが参加し、他のランニングチームと競い合った。

6) NPO法人としての安全対策強化等の社会貢献活動

2000年にNPO法人化して以降、特定非営利活動法人格を持つラグビーチームとして、社会貢献活動への協力の可能性についても模索してきた。3年前より、「乳がんの早期発見及び乳がん検診の啓発運動（ピンクリボン運動）」を推進しているNPO法人J. POSHの活動に協賛し、倶楽部としてピンクリボン運動のロゴマークをジャージに貼付する等、活動を継続している。

また、倶楽部としてAED（半自動除細動器）を購入し、心停止状態発生の緊急事態に備え、活動中常備することとした。7月に実施した安全講習会では、AED取扱操作の講習を中心に実施した。更に県協会主催のメディカルサポーター講習会にも多数の指導員が参加し、資格更新を行った。

7) 広報活動の強化

倶楽部広報紙「ラグビー藤沢」を発行し、全会員、ラグビースクール生徒と父母、スクールのOB等に配布した。また、ラグビースクール生徒募集活動（リクルート活動）を常時展開し、春先にはリクルートパンフを作成して幼稚園や小学校で配布した。更に中学3年生卒業記念文集を例年通り発行し、卒業生の熱い想いを後輩たちに伝えた。

倶楽部のPRや会員への迅速な情報伝達的手段として利用されているホームページは適宜更新を実施している。ホームページを通じ、体験希望者や入会申込者も増加傾向にある。

12月には神奈川県ラグビー協会より、当倶楽部から2名が永年にわたるラグビーの普及貢献に関わる功労賞が授与された。

8) 本年度会員数、各事業登録者数

以上の活動を支える当倶楽部の会員数は、2012年3月末時点で下記となっている。

正会員	147名
個人賛助会員	40名
法人会員	3社

また各事業活動の登録者数は下記の通りである。

ラグビースクール：	生徒数	204名
	指導員数	76名
トップチーム	：	50名
タッチチーム	：	45名
シニアチーム	：	40名
女子チーム	：	0名

正会員数は昨年比増加となったが、個人賛助会員数が減少傾向にあり、来年度に向けて引き続き勧誘活動の強化が必要である。また倶楽部の財政基盤充実のために、法人賛助会員拡大の活動が必要と考える。

以上

2. 事業内容

(特定非営利活動に係る事業)

事業名	事業計画	実施日時	実施場所	従事実人数	受益対象者範囲と人数	支出額(千円)	活動実績と結果
1 ラグビースクールの運営に係る事業(定款第5条第1号に係る事業)	1. 地域に於ける4歳から18歳迄の少年、少女を対象としたラグビーの技術的・精神的指導	通年 毎日曜日 小5以上 は土曜も 実施	辻堂海浜公園 秋葉台球技場他	76名	4歳～18歳 204名 保険は指導員共	登録140 用具475 グラント 52 保険254	1. 計画通り実施し、初期目的を達成した H. 23. 4～H. 24. 3(除く8月) 計46回開校、参加人員毎回 生徒約200名平均、コーチ約70名
	2. 夏期合宿練習	8月	山梨県 富士緑の休暇村	42名	8歳～15歳他 128名	5,105	2. 計画通り実施し、当所の目的を達した
	3. ラグビースクール 交歓運動会開催	12月	横浜市	40名	4歳～15歳 200名	-	
	4. 中学3年生卒業式	3月	藤沢市	70名	中学3年生 14名	198	(卒業文集作成費は別途)
2 ラグビーフットボールの振興普及に係る事業(定款第5条第3号に係る事業)	1. 藤沢ラグビーフェスティバル	7月	藤沢市	70名	約200名	-	R S 各学年が参加
	2 ラグビースクール 交流試合参加 高校フェスティバル 法政二高 桐蔭学園 藤沢市民大会	9～12月 6月 6月 9月	神奈川県内 法政二高G 桐蔭学園G 秋葉台球技場	50名 5名 5名 60名	8歳～15歳 延1,000名 中学 39名 中学 39名 約200名	- - - -	1. その他スポーツを通じた地域活動の 項参照 2. 神奈川県ラグビースクール交流試合 等に出場した 県内の高校で開催されるラグビー フェスティバルに招待された 藤沢市民大会で小中学各学年と 湘南PBの試合が実施された
	3. ラグビースクール 中学菅平ジャンボリー	7月	菅平	8名	中学 39名	43	3. 菅平ジャンボリーに参加
	4. トップチーム 都道府県大会 国体関東ブロック 神奈川県ラグビー選手権 交流戦	4月 8月 春、秋	茨城県 茨城県 保土ヶ谷ラグ ビー場 他	10名 20名 50名	10名 20名 50名	155	4. 国体参加、各大会参加 神奈川県代表、南関東ブロック代表
	5. シニアチーム 交流試合	9～2月	秋葉台球技場 善行G他	25名	25名	31	5. 年度を通じ試合実施
	6. タッチチーム スーパーリーグ前後期 千葉、東京大会 第10回湘南大会 ジャパソカップ 関東	4～10月 5月、6月 7月 9月	埼玉県 千葉県、東京都 辻堂海浜公園 東京都葛飾区	11名 10人 40人 24名	延べ53名 延べ17名 約100名 24名	28 33 60 53	6. 年間55回の練習と、各地の大会で好成績をあげた

事業名	事業計画	実施日時	実施場所	従事実人数	受益対象者範囲と人数	支出額(千円)	活動実績と結果
	7. 女子チーム 第5回ガールズフェスティバル	11月	埼玉県	2名	10名	38	7. 関東連盟主催の講習会やガールズフェスティバルに参加
3 ラグビークラブチームの育成指導に係る事業(定款第5条第2号に係る事業)	1. トップチームの育成・指導 2. 女子チームの育成指導 3. タッチラグビーチームの育成・指導 4. コーチ、レフェリー、メディカルサポーター等指導監督者の育成プログラムへ参加 C級レフェリー資格試験	毎日曜日 毎日曜日 通年 毎土曜日 随時 (3～4回) 3月	秋葉台球技場ほか 辻堂海浜公園 辻堂海浜公園 神奈川県内	4名 2名 45名 2名 2名	成人男子 50名 女子生徒 10名 45名 40名 2名	登録 74 保険 57 保険 68 -	1. レギュラーチームは新規メンバー強化を図り、定期的な練習を実施 1部リーグに定着、国体出場 2. 左記練習他、関東連盟主催の講習会やガールズフェスティバルに参加 3. 一般市民の参加があり、ラグビー普及効果、市民への浸透など効果を上げた。 2名がC級レフェリー資格を新規取得
4 その他スポーツを通じた地域活動(定款第5条第4号に係る事業)	1. 倶楽部祭(運動会) 2. ライフセービングクラブとの交流 3. 藤沢市スポーツ少年団活動 4. 辻堂砂山市民の家祭 5. 海浜公園駅伝大会	5月 10月 10月 12月 2月	藤沢市 藤沢市 藤沢市 藤沢市 藤沢市	70名 2名 15名 7名 4名	400名 35名 20名 40名	79 10 27 6	3. 小5、小6が参加 4. 幼児への工作指導と焼きそば出店 5. 小学生4チームが参加
5. 機関紙、パンフレット等の発行事業(定款第5条第5号に係る事業)及びHPの運営事業	1. 倶楽部案内、活動状況を掲載した新聞発行 2. 中学卒業文集 3. HPの運営	7月 3月 毎月	倶楽部事務所 倶楽部事務所 倶楽部事務所	4名 4名 1名	OB、生徒、会員全員 生徒、会員 会員全員及び一般	72 81 12	1. 機関紙は発行1回 ホームページに練習日のお知らせを掲載し充実を図ったことにより体験者の参加が増えた 2. 中学3年生全員と関係指導員で、卒業文集を作成した。 3. HPを定期的に更新

決 算 報 告 書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

収支計算書
財産目録
貸借対照表
計算書類に対する注記

特定非営利活動法人
藤沢ラグビー蹴球倶楽部

平成23年度 収支計算書

(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

(藤沢ラグビー蹴球倶楽部)

(単位：円)

科 目	金	額	備 考
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入会金収入			
正会員年会費収入	1,919,250		
賛助会員年会費収入	142,000		
入会金収入	8,000	2,069,250	
2 事業収入			
F R S 年会費収入	2,915,750		
夏合宿参加費収入	4,807,880	7,723,630	
3 その他収入			
受取利息	2,938		
寄付金収入	309,855		
雑収入	5,277	318,070	
経常収入合計			10,110,950
II 経常支出の部			
1 事業費			
用具費	475,804		
グラウンド使用料	52,400		
損害保険料	379,600		
夏合宿費用	5,105,873		
対外試合費用	345,784		
チーム育成費	251,500		
コーチ育成費	103,710		
タッチ活動費	455,223		
ラグビー祭他地域交流費	158,194		
卒業式諸費	279,423		
広報活動費	129,600	7,737,111	
2 管理費			
水道光熱費	9,947		
賃借料	496,422		
通信費	63,295		
事務消耗品費	219,374		
支払手数料	82,605		
交際費	131,575		
雑費	151,414	1,154,632	
経常支出合計			8,891,743
経常収支差額			1,219,207

(単位：円)

科 目	金 額		備 考
Ⅲ その他の資金収入の部			
1 貯蔵品売却収入			
ラグビーグッズ売却収入	63,000	63,000	
その他の資金収入合計			63,000
Ⅳ その他の資金支出の部			
1 特定事業預金支出			
クラブハウス修繕引当預金支出			
周年事業引当預金支出	100,000	100,000	
その他の資金支出合計			100,000
当期収支差額			1,182,207
前期繰越収支差額			6,337,954
次期繰越収支差額			7,520,161
(正味財産増減の部)			
Ⅴ 正味財産増加の部			
1 資産増加額			
当期収支差額(再掲)		1,182,207	
クラブハウス修繕引当預金額		300,000	
周年事業引当預金額		100,000	
資産増加額合計			1,582,207
Ⅵ 正味財産減少の部			
1 資産減少額			
貯蔵品評価損		46,250	
貯蔵品売却額		63,000	
資産減少額合計			109,250
当期正味財産増加額			1,472,957
前期繰越正味財産額			8,739,386
当期正味財産合計			10,212,343

財 産 目 録

平成24年3月31日現在

(藤沢ラグビー蹴球倶楽部)

(単位：円)

科 目 ・ 摘 要	金 額		
I 資 産 の 部 1 流 動 資 産 現金預金 現金 現金手許有高 359,356 普通預金 横浜銀行辻堂支店 499,827 振替貯金 辻堂西郵便局 835,105 前払費用(平成24年度保険料) 366,150 貯蔵品 192,180 流動資産合計 2 固 定 資 産 定期預金 横浜銀行藤沢中央支店 5,159,723 什器備品(倉庫棚) 1 什器備品(救急用AED1台) 1 特定支出引当預金 横浜銀行辻堂支店 2,500,000 固定資産合計 資 産 合 計			
		2,252,618	
		7,659,725	9,912,343
II 負 債 の 部 1 流 動 負 債 負債合計 正 味 財 産		0	0
			9,912,343

貸 借 対 照 表

平成24年3月31日現在

(藤沢ラグビー蹴球倶楽部)

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現 金 預 金	1,694,288		
前 払 費 用	366,150		
貯 蔵 品	192,180		
流 動 資 産 合 計		2,252,618	
2 固 定 資 産			
定 期 預 金	5,159,723		
什 器 備 品	2		
倶楽部ハウス修繕費引当預金	2,400,000		
周年事業費引当預金	100,000		
固 定 資 産 合 計		7,659,725	
資 産 合 計			9,912,343
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
負 債 合 計		0	0
III 正 味 財 産 の 部			
前 期 繰 越 正 味 財 産		8,739,386	
当 期 正 味 財 産 増 加 額		1,172,957	
正 味 財 産 合 計			9,912,343
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計			9,912,343

計算書類に対する注記

I. 重要な会計方針

1. 資産の評価基準および評価方法

(1) 有価証券

取得原価法を用いています。

(2) 貯蔵品

個別法による原価法を用いています。

(3) 固定資産の減価償却について

什器備品についてはそれぞれ備忘価額 1 円を残し、全額費用処理しております。

2. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金・預金及び短期金銭債権債務を含めています。

なお、当期末残高は下記Ⅱ. に記載するとおりである。

Ⅱ. 次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	1,042,123	1,694,288
定期預金	5,157,246	5,159,723
仮払金	13,125	0
前払費用	0	366,150
未収入金	125,460	0
次期繰越収支差額	6,337,954	7,220,161